

見立てたりんごを回転させて地球の公転により太陽が動くように見えることを知る。

地球は動いている（自転・公転している）ということは最初から教えた方がいいでしょう。でないと頭が混乱するでしょうから、初めから地動説一本で行くべきです。小学理科では天文が各学年に分散していますが、これを上のように結びつけるのも一方法かと思います。ただし私には実際小学生に教えた経験がありませんので、これは単に机上の一試案にすぎません。小学校の先生方のご意見がうかがえれば幸いです。

(252 頁からつづく)

ていると考えることは、必ずしも正しくない。とにかく、この種の星の多くはそのスペクトルにあらわれる輝線の輪郭に、短波長側にずれた吸収成分をもっていることは、忘れてはならない。

最後に、おうし座T型星のスペクトルの特長は、その連続スペクトルが、顕著に現われていることである。この連続スペクトルには、二つの型がある。一つは、ジョイが指摘したように、通常の写真領域で、吸収線を埋めてしまうぐらいの強度を示すものであり、もう一つは、この連続スペクトルが紫外部において大きな強度を示すものである。前者の場合は、水素のバルマー線が顕著に現われている。このバルマー線は、 H_α がもっとも強く、 H_β , H_γ , H_δ , というように、しだいにその強度が弱まっていくが、この弱まり方は、あまり急激ではない。このような輝線が、非常に強いときは、輝線と輝線の間は滑らかで、吸収線が消えてしまうのである。後者の場合は、 3800\AA ぐらいから短波長にいくにつれ急激に、強い連続スペクトルが現われる。この原因はよくわからないが、高い次数のバルマー線が分散度の低い分光器系では、個々の線に分解されないで、それがあたかも連続であるかのような様子を示すのであって、この紫外部での異常に強い連続スペクトルは、水素原子による輻射によるのだろう。これは、ベームが一角獣座 NX, オリオン座 VY という二つのおうし座 T 型星のスペクトルを解析して、明らかにした考えである。これに対して、このような紫外部での異常性は局所的に光速に近い速度で運動する電子のシンクロトロン輻射に由来するという考えもあることを付記しておこう。

日本天文学会 1965 年秋季年会記事

本会の秋季年会は 10 月 8 日および 9 日にわたって、東北大学金属材料研究所講堂において行なわれた。今回は講演数 54, 理事会 および 大塚奨学金選考委員会等が組込まれた。連日の出席者約 140 人であった。

研究発表の数および座長は次の通りである。

	研究発表数	座長
第 1 日 (8 日) 午前	10	奥田, 藤田
午後	16	清水, 池田
第 2 日 (9 日) 午前	14	一柳, 広瀬
午後	14	斎藤, 古畑

研究発表終了後理事長より挨拶があった。なお第 1 日 (8 日) 夕刻懇親会が行なわれた。

・最新刊

鈴木敬信著

天体観測ハンドブック

「天文年鑑」の姉妹書

大好評 発売中! 定価 250 円

毎年、圧倒的な人気を得ている「天文年鑑」を 100% 活用していただくためにくわしく解説と、具体的な観測の指針を示したものです。高度の天文ファンのために数値計算の方法もせましました。天体観測には天文年鑑と共に必携の書です。

唯一の観測ガイド誌

月刊 天文ガイド

11 月号 発売中 定価 100 円

広い読者の支援で、ますます好評です。11 月号は 33 年ぶりに近づく「しし座流星群」の観測を主テーマに、魅力ある観望対象を豊富にとりあげてあります。

東京都千代田区
神田錦町 1~5

誠文堂新光社

振替・東京
128